

理系
(登録順に掲載)

氏名	職名	所属	係・講座	研究分野
1 キノシタ アヤエ 木下 彩栄	教授	医学研究科	人間健康科学系専攻地域保健看護学講座	アルツハイマー病の病態、認知症ケア、在宅看護 資格としては認定内科医、神経内科専門医、認知症専門医 上記が専門分野ですが、神経内科関連全般、育児等との両立についてなど幅広くお受けできると思います。
2 タムラ ケイコ 田村 恵子	教授	医学研究科	人間健康科学系専攻臨床看護学講座	・がん看護 特にホスピス、緩和ケア、EOLケアについての看護に関すること ・看護における倫理 臨床倫理、倫理的ジレンマの解決に向けての取り組み
3 ニン カズコ 任 和子	教授	医学研究科	人間健康科学系専攻臨床看護学講座	看護学 ・人と対象とした臨床看護研究 ・糖尿病、心不全、リウマチなど慢性疾患をもつ人の看護 ・チーム医療 ・看護管理学
4 イトウ ミチホ 伊藤 美千穂	准教授	薬学研究科	薬科学専攻薬品創製化学講座	生薬学・薬用植物学 特に、香り成分の生合成(遺伝子クローニングや機能探索)研究香り成分の生薬薬理学的研究生薬のレギュラトリーサイエンスに関する研究 薬用植物の栽培研究など。 かつては民間伝承薬についての海外調査研究も行っていました。いまは研究室の体制が整わず、一時中断状態です。
5 シン ヘウオン 申 恵媛	准教授	薬学研究科	薬科学専攻生体情報薬学講座	分子細胞生物学、生化学 主に動物細胞を用いて細胞機能における様々なタンパク質や脂質の制御機構の研究をしています。
6 ウエダ カヨ 上田 佳代	准教授	地球環境学	地球益学廊	疫学、環境疫学 大気環境が健康に及ぼす影響について明らかにするために、人のデータと環境のデータを結合させて、研究しています。 環境疫学では、異なる分野の研究者同士で研究を行うことが多く、その研究実施の調整役になることも多いです。
7 シマダ ヨウコ 島田 洋子	准教授	工学研究科	都市環境工学専攻環境システム工学講座	環境リスク工学 有害化学物質、有害重金属および放射性物質の環境中挙動の解析
8 キタジマ カオル 北島 薫	教授	農学研究科	森林科学専攻森林管理学講座	熱帯林環境学、植物生態学、保全生態学、特に熱帯林植物種の生活史戦略、実生更新、機能形質多様性、及び、形質を通しての生態系機能の理解についての研究
9 アカマツ ミキ 赤松 美紀	准教授	農学研究科	地域環境科学専攻比較農業論講座	農薬化学、ヒトにおける薬物動態(代謝、排泄)、構造活性相関化学物質分析などの化学実験を行い、コンピュータを用いて分析結果の予測を目指している。
10 フナビキ ヤスコ 船曳 康子	教授	人間・環境学研究科	共生人間学専攻認知・行動科学講座	こころの発達、精神医学、メンタルヘルス、子どものこころ、発達行動学 背景：京大 科医(H8年卒)→Caltech留学→学振特別研究員→京大 精 科医(助教)→人環教員
11 キナン ユウコ 木梨 友子	准教授	複合原子力科学研究所	原子力基礎工学研究部門	放射医学分野 原子力中性子を用いてホウ素中性子捕捉療法に携わってきました。研究内容はホウ素中性子捕捉療法の治療効果向上のための放射線生物研究です。医師免許、放射線取扱主任者第1種免許を持っています。
12 サカイ ショウコ 酒井 章子	准教授	生態学研究センター	生態学研究部門	植物生態学、とくに被子植物の繁殖 生態系サービスなど人と生態系の関わり
13 セキグチ ハルコ 関口 春子	准教授	防災研究所	社会防災研究部門	強震動地震学 大地震の震源過程解析、地震時の地盤応答解析、地下構造モデル化、地震動予測
14 ムラヤマ ミホ 村山 美穂	教授	野生動物研究センター	人類進化科学研究部門	野生動物の保全遺伝学、動物行動の遺伝的背景の解明
15 ウメツ チエコ 梅津 千恵子	教授	農学研究科	生物資源経済学専攻国際農林経済学講座	環境資源経済学、応用ミクロ経済学をベースにした理論と実証研究、トルコにおける温暖化と水利用、農業セクターの生産性分析、アフリカ農村世帯のレジリエンス、財産区と地域の資源管理
16 アサリ ミズズ 浅利 美鈴	准教授	地球環境学	地球益学廊	これまでは環境工学分野で廃棄物問題 循環型社会の構築、大学の環境管理システム構築などについて研究してきましたが、昨年から、環境教育 専門となりました。 途上国における環 問題や地域における環境教育についても、研究・活動 取り組んでいます。
17 イケダ ハナコ 池田 華子	准教授	医学部附属病院	臨床研究総合センター	眼科学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、再生医学基礎の実験から臨床研究にかけて
18 シオミグチ サチコ 南口 早智子	准教授	医学部附属病院	病理部	・診断病理学 婦人科腫瘍(特に絨毛性疾患) 胎盤 細胞診(EUS-FNA、子宮頸部、尿) ・免疫組織化学(診断に有用な抗体パネル)
19 イハラ マサエ 石原 正恵	准教授	フィールド科学教育研究センター	森林生態系部門	研究分野:森林生態学 樹木の繁殖や成長に関する研究。野外の多地点長期データを用いた多様性や森林の物質生産の変動に関する研究。生態系サービス評価。気候変動や分断化に対するブナ林の脆弱性評価。
20 ヒグチ ユリコ 樋口 ゆり子	講師	薬学研究科	薬学専攻薬品動態医療薬学講座	・薬学(薬剤学、ドラッグデリバリーシステム開発) ・生体医工学(細胞製剤、再生医療) ・intravital蛍光イメージング キーワードを並べると上記になります。薬学部と工学部の融合分野の様な位置付けです。

21	シミズ イチコ 清水 以知子	准教授	理学研究科	地球惑星科学専攻固体地球物理学講座	固体地球科学(岩石力学、熱力学、高温高圧実験)
22	シンブク ヨウコ 新福 洋子	准教授	医学研究科	人間健康科学系専攻家族看護学講座	サブサハラアフリカの妊産婦死亡・新生児死亡の削減のため、フロントラインワーカーである助産婦・看護師への効果的な教育プログラムの開発と、その評価研究を行っています。 フィールドはタンザニアで、現地のムヒンビリ健康科学大学の教員たちと協働しながら、研究・教育を進めています。 また、日本学術会議若手アカデミー副代表、国際分科会委員長、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会委員を拝命しています。若手研究者の就職・研究環境の改善、特に日本で遅れている女性研究者の参画の課題、国際交流と意見交換等を行っています。自分の研究・研究室、はたまた日本だけに留まらず、広く世界を知ることのできる課題があると考えています。
23	マキノ アキコ 牧野 晶子	助教	ウイルス・再生医科学研究所	ウイルス感染研究部門	・新興ウイルスの病原性 ・ウイルスベクター ・ウイルスと宿主の相互作用 ・ウイルスの進化 に関する研究
24	ヤナガワ アヤ 柳川 綾	助教	生存圏研究所	生存圏開発創成研究系	研究分野 昆虫病理・微生物的防除(農学・理系) 内容 昆虫の病気について、衛生行動をモデルに、環境中の微生物と昆虫の相互関係や、免疫系と行動による生体防御系の関連などを調べています。生存圏研究所という環境から、マイクロ波の昆虫目への影響や、昆虫・微生物・植物に由来する生体活性物質に等についても研究しています。 研究は、持続的な環境・生態系保全を目標に行っています。 生存圏研究所男女共同参画推進委員会の委員を務めています。
25	ヨシナガ ナオコ 吉永 直子	助教	農学研究科	応用生命科学専攻応用生化学講座	応用生命科学専攻化学生態学分野 有機化学・分析化学 農薬、昆虫-植物間相互作用、昆虫の解毒代謝研究
26	ニシオカ ナフミ 西岡 千文	助教	附属図書館		情報学、図書館情報学
27	ウダカ ヒロコ 宇高 寛子	助教	理学研究科	生物科学専攻動物科学講座	動物生理学・生理生態学・分子生物学 主に昆虫やナメクジを対象として、無脊椎動物がどのように季節変化を生き延びているのかそのしくみについて研究しています。
28	カノウ カリン 加藤 果林	助教	医学部附属病院	麻酔科	大学院では周術期の感染について研究しました。 現在は麻酔科医として働きつつ、周術期の感染、ペインクリニック、漢方医学について興味を持ち、学んでいます。
29	ナムラ キョウコ 名村 今日子	助教	工学研究科	マイクロエンジニアリング専攻マイクロ加工システム分野	ナノ構造薄膜、マイクロ流体駆動 光を熱に変換できる薄膜を使って、少量の流体をかき混ぜる研究をしています。 目で見るには少し小さいくらいのもので遊ぶのが好きです。
30	タケウチ ユウコ 竹内 祐子	助教	農学研究科	地域環境科学専攻生産生態学講座	森林に関わる微生物、特に植物寄生線虫による森林流行病の発病メカニズムに関する研究を行っています。
31	ホンダ アキコ 本田 晶子	助教	地球環境学堂	地球益学廊	環境毒性学 環境汚染物質が人体に及ぼす影響を培養細胞や動物を用いて実験的に評価しています
32	イシイ ヨウコ 石井 陽子	助教	理学研究科	物理学・宇宙物理学専攻量子光学講座	理学研究科物理学第一教室 ソフトマター物理学
33	オカハシ サヤカ 岡橋 さやか	助教	医学研究科	人間健康科学系専攻作業療法学講座	作業療法士としての臨床経験を活かしリハビリテーションに関する研究に取り組んでいます。VR/ARなどの先端技術を用いて、医療現場を変える新たな検査・トレーニングツールの開発とその効果を検証する臨床研究を行っています。記憶や注意力等の認知機能や、上肢や手の運動・感覚機能など、あらゆる人の日常生活に密着した側面にアプローチしています。医工連携での学術研究のみならず、産官学連携によるニーズ発掘から製品開発までのプロジェクトにも参画しています。